

陸上運動部部便り

2007年7月号

四大戦

目次

1	四大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	2
1.5	試合結果	10
2	2007年度部内5傑 2007.7.7現在	14
3	自己記録更新者一覧 2007.5.28~7.7	15
4	主務より	16
4.1	応援OB・OG紹介	16
4.2	行事予定	16
4.3	連絡先(慶弔等)	16

1 四大戦

1.1 監督の言葉

監督代理 八田秀雄

四大戦は7月7日鴻巣競技場で行われました。朝は雨の可能性もありましたが、途中から薄曇りとなり、午後は晴れ間も出て暑くなりました。去年はこの大会で1位になり、その勢いで七大で勝てた印象がありました。今年もそう行きたいところですが、結果は1位の学芸大とは25点差の2位タイ。全般的に体が重く動きが悪いと感じさせる選手が多くみられました。その原因としては、6月にはしかで急に週末が構内立ち入り禁止となったことが2回あったり、雨その他もあって、あるいは集中した練習ができていなかったのではないかと思います。その中で松本が1500mと5000mの2冠で男子の最優秀選手となったのが目立ちました。後は短距離の藤

本、福田がベストを出したのも記録はまだまだでも朗報。また1年で期待の兵頭が400mで好走を見せ、リレーのアンカーも務め早くも短距離の柱となる走りを見せたことや、他にも中長距離の渡辺、竹俣、跳躍の西田など1年生の好記録は楽しみでした。

女子はこの大会では得点自体が目標となりますが、院生の堀越が一人気を吐いた感じで2種目得点しました。ただし日下の800mも得点し、まづまづ今後につながる状況にはなりました。七大まで3週間、戦力的にはバランスがそれなりに取れているので期待はしています。今回の結果を、逆に本番へのよいステップとするべく、集中したスピード練習が必要でしょう。

最後に明石君の世界陸上代表が7月2日に正式発表されました。応援の横断幕を作りましたので、どうぞ皆様9月1日朝はお集まり下さい。

1.2 主将の言葉

主将 倉員智瑛

今年の四大戦は埼玉大学主幹のもと、鴻巣市営陸上競技場で行われました。男子総合2位、女子総合4位という結果に終わった今日のこの試合だけを見ると、満足するわけにはいきませんが、七大戦に向けて、という意味では及第点に達したのではないかと思います。日差しが強い上に日陰が少なく、タータンは軟らかく反発が少ないという決して良くはないコンディションの中、100mの藤本(4年)、走高跳で小福田(3年)、400mの兵頭(1年)が七大戦で十分戦える結果を出してきたことは収穫でした。今後、七大戦で最高の結果を出すために部員一人ひとりが残された時間を最大限活かせるよう努めてまいります。諸先輩方、今までと変わらぬ暖かい

ご声援をよろしく申し上げます。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 宮崎彩

今年の四大戦は、天気予報と反して、強い紫外線と日差しを感じる中行われました。3点制である今大会では、強豪3校との戦いにおいても、自らのベストを尽くすこと、今後の試合を踏まえた競技の向上を目標に据えて試合に臨みました。

結果としては4位でしたが、堀越(D2)が出場した両競技種目において自己ベストを出した上での2点、体調が悪い中走りきった日下(2年)の1点で、計3点を取得することができました。また、それぞれベストコンディションではない中、少人数にも関わらず女子部員の多くが自己ベストを出したことは非常に意味のあることであります。これまでの練習の成果が少しずつ花開いていることを確認できる試合でありました。

これから、大きな試合が目白押しですが、女子部員もまた『自己ベストを出して上位を狙う』という部全体の目的を抱いて、七大戦に望みます。ご声援よろしくお願いたします。

1.4 試合経過

トラック

10:00 女子4×100mR 決勝

3レーンに高山(1年)-大久保(2年)-楠木(2年)-清水(2年)の走順で出場。今大会最初の対校種目。国公立戦と同じメンバーで、走順を変えて挑んだ。前回の国公立戦のタイム54"18を上回り、1校でも多くの他大に勝つことが期待された。

号砲とともに1走高山が良いスタートを切るが、走力差からか、他大選手から遅れ、最下位の4位で2走にバトンパス。2走の大久保が懸命に前を追いかけるも、その差は縮まるどころかむしろ引き離されていく。2-3走のバトンパスとなるが、他大との差を縮めよ

うと急ぎすぎたのか、3走楠木がかなり早いタイミングでスタートを切り、2走大久保が追いつけず、楠木がスピードダウンしてからのパス。大きなロスとなった。その後、アンカー清水に繋がり、清水が最後まで諦めず必死に前を追ったが、結局4番目でフィニッシュ。2-3走のバトンパスがテイクオーバーゾーンを越えて行われていたと判定され、残念ながら失格となってしまった。

今回のレースで、走力アップとバトンパスの改善という明確な課題が見つかった。七大戦までに走力を上げるというのはなかなか難しいが、バトンパスの改善や、コンディションの調整など、残りの期間でできる限りのことをして、1ランク上の走りを七大戦で見せてほしい。

10:05 男子4×100mR 決勝

3レーンに今村(4年)-藤本(4年)-尾崎(3年)-福田(3年)の走順で出場。200mに強い今村をコーナー技術を要する1走に、怪我から復調しつつあるショートスプリントチーフ藤本を2走に、国公立戦ではリレーを走らなかったエース尾崎を3走に、最近の試合で調子を上げてきている福田をアンカーに置いた布陣が、今回初の試みであるアンダーハンドパスで力のある他大とどれだけ戦えるか。

1走今村は良いスタートを切るも、いつもより若干動きに硬さが見られた。他大にリードを許し、3、4番手で2走にパス。2走藤本は怪我の影響を感じさせないキレのある走り。しかし、2-3走のバトンパスに少々てこずりタイムロスしてしまう。3走尾崎、4走福田はそれぞれ自分のいつものおりの走りで行くもの、順位を上げることができず42"78の4位でゴール。

改善すべき点はまだあるが、初めての走順、初めてのアンダーハンドパスの使用で、国公立戦の時よりもタイムが良くなったことは収穫だ。七大戦で

1点でも多く獲得できるよう、残りの3週間でリレーチームをベストな状態に仕上げしてほしい。

10:10 男子 1500m 決勝

松本(4年)、斎藤(4年)の出場。直前のリレーで取れなかった得点をここで取り返したいところ。空は曇り、気温がさほど高くない好コンディションの中スタート。

複数種目に出場する選手が多いせいかスローペースでの展開となる。400mを68"で通過。松本、斎藤ともに集団内で前を窺う展開となる。集団内での入れ替わりはあるもののペースは依然として上がり、800mを2'15"、1000mを2'50"で通過する。後半のペースアップが勝負の鍵を握る。残り500mを切ってペースが上がり、集団がバラける。松本は反応し先頭についたが、斎藤は遅れる。先頭は1200mを3'09"で通過。斎藤は2秒ほど遅れていたが、残り200mで1人を抜き3位に上がる。松本は残り100mでスパート、相手も直ちにスパートを掛けるが、キレは松本が上であった。2位に1秒以上差をつけ、4'02"32の1位でフィニッシュ。斎藤はラスト粘って4'06"57の3位でフィニッシュ。

2人ともきっちり自分の仕事を果たし、東大は10点を獲得した。両名の七大戦での奮闘も期待される。

10:40 男子 400m 決勝

3レーンに梶岡(3年)、6レーンに深澤(3年)の出場。持ちタイムによると、まずまずの得点が期待できた。

スタート直後は2人ともスピードに乗ることができずに出遅れ、他の選手から離される形になる。しかしバックストレートに入ると、前を行く選手から引っ張られる形で2人ともスピードを上げていった。その後は安定したペースでレースを作っていたが、梶岡はラスト50mで急失速して1人に抜かされてしまい、51"49の5位でフィ

ニッシュ。一方深澤は300m辺りからスパートをかけ、ラスト50mで再びスパートをかけた。これが功を奏し、ゴール直前で前を行く選手を捉えて、50"70の2位でのフィニッシュであった。

対校得点は期待通りであった。また、深澤は今季ベストに近いタイムではあったが、梶岡は納得できるタイムとは言えなかった。今後の対校戦のことを考えると、七大戦に向けて今一步の伸びが必要だといえるだろう。

11:00 男子 110mH 決勝

6レーンに尾崎(3年)、1レーンに酒谷(1年)の出場。昨年の四大戦の110mHで尾崎は優勝しているだけに、2連覇の期待がかかる。しかし、持ちタイムでは埼大、東学大の選手に続いて、3番手なので、昨年よりは厳しいレースだといえる。また、走幅跳とも競技時間がかぶっており、走幅跳の途中に110mHを走るようになった。

尾崎は最初からスピードが伸びず中盤でもあまり上がり、15"76の4位だった。尾崎とは対照的に、徐々に調子を上げてきている酒谷は初の対校選手としてのレースにも関わらず、持ちタイムでは8番手だったが16"39のシーズンベストのタイムで走り7位でゴール。このときの風は±0.0だった。

尾崎は走幅跳でも結果はあまり良くなく、調整がうまくいかず今回の大会では調子を上げることができなかった。早く調子を取り戻して、七大戦ではまた好記録を出してくれることを期待する。一方の酒谷は、自己ベストは15"99なので、このまま調子をあげれば、今年中に自己ベスト更新も期待される。

11:20 男子 100m 決勝

2レーンに都井(2年)、7レーンに藤本(4年)の出場。参考記録が10秒台の選手が4人出場しており厳しいレースが予想されたが、都井は国公立戦で自己新記録を出しており、藤本も順調に調子を伸ばしているのが好走が期待

される。

好調を維持していた都井はスタートで出遅れてしまう。懸命に追いかけるも開いてしまった差はどうしようもなく、前に行く選手を追うのに体に力が入りすぎて、後半硬い走りとなってしまう。結果 11"53 の7位であった。一方の藤本は順調にスタートを切る。中盤上位5選手が横一列となり大混戦となるが藤本も遅れることなくついていく。後半も減速することなくよくのび、11"10 の4位でフィニッシュ。このとき風は+0.2であった。

この種目での東大の得点は3点で得点的には厳しい結果であったが、七大戦へとつながる走りを見せてくれた。

11:40 女子 100m 決勝

2レーンに大久保(2年)の出場。曇り空で気温もそれほど上がり過ぎず、走るのにちょうどよいコンディションのなか2人欠場の5人でのレースとなった。持ちタイムでは格上相手とのレースであり苦戦が予想された。

大久保は号砲とともに勢いよく飛び出し、順調なスタートを切るがほかの選手に遅れをとってしまう。その後も懸命に追いかけて、好走を見せるが結局追いつくことはできず 13"78 の5位で地力の差が出てしまう結果となった。このとき風は+0.5mであった。

結果は惜しくも5位であったが、大久保は順調に調子を上げてきており、七大戦での好走が期待される。七大戦までの3週間の過ごし方、調整の仕方が重要な課題となるだろう。

12:20 男子 400mH 決勝

3レーンに門脇(3年)、7レーンに伊勢田(5年)出場。参考記録から見て53~54秒台のレースが予想され厳しい展開となるかもしれないが、日差しはそれほど強くなく、好記録が期待される。

伊勢田がスタートから飛び出す積極的なレースで先頭争い。門脇は2台目

から足が合わず、なかなかリズムに乗っていけない。しかし、そこから粘りを見せ、前方の選手を追っていく。一方、バックストレートに入り9台目を抜けた後も先頭争いに加わっていた伊勢田であったが、10台目で無念の転倒。ここまで、持ちタイムでは劣る相手に一步も引かぬレース運びで、自己記録の更新も期待されただけに大変残念であった。結局、門脇が59"60で6位、伊勢田が60"01で7位となり、1点を獲得した。

第11回 IAAF 世界陸上競技選手権大阪大会 400mH 日本代表の成迫健児選手も出場したオープン種目では、酒谷(1年)が58秒台の記録をマークしており、3週間後に行なわれる七大戦では対校選手の変更も考えられる。七大戦連覇に向け短距離トラック種目の出来不出来が大きなポイントになるだけに、より一層の奮起が期待される。

12:50 男子 800m 決勝

3レーンに野村(2年)、7レーンに坂井(2年)の出場。中距離パートは6月の鍛錬期を終え、好記録を期待できる試合であった。野村は国公立戦から続く不調及び腰の故障から脱し切れていないものの、高得点が期待される。一方、坂井はスピードの勘を取り戻し、最近是好調である。大学ベストかつ1分台を狙う。

スタート直後から、坂井は積極的なレース運びでいい位置を確保。3番手につける。一方、野村は最後尾につき、落ち着いて後ろからレースを窺う展開となった。ホームストレートに入ると、坂井は先頭との差をジワジワと広げられてしまい、先頭は56"、坂井は57"、野村は58"で1周目を通過。そのままレースは進むと思われたが、バックストレートに入ると坂井は失速し、5番手まで順位を落としてしまう。野村は1人かわして7番手に。残り200mになったところで、坂井は再び奮起して1

人抜き返す。野村も最後の直線に備えて、チャンスをうかがう。そしてラスト、坂井は力を残していた埼玉大の選手にかわされ、1'59"59の5位でゴール。一方、野村は得意のスパートで勝負に出るも伸びきらず、無念の2'00"19で6位であった。

坂井は1分台で自らの大学ベストを更新し健闘をみせた。野村はシーズン前半の好調を取り戻し、早期の復活を期待したい。

13:00 女子 800m 決勝

7レーンに日下(2年)の出場。多岐目に出場し大量得点を獲得した国公立戦とは違って変わり、七大戦を見据え関東インカレレベルの選手たちと勝負するべく800m一本に絞って出場した。

好記録も期待される中レースはスタート。実力者である学大と埼玉大の選手がレースを引っ張り、続く3番手の好位置に日下はつける。200mを33"、400mを68"と日下にとってはいつものペース。ホームストレートでの走りにも余裕が感じられる。2周目に入ると先頭の2人はペースアップするが、日下はこれにうまく対応できない。先頭2人が優勝をかけてスパートするのを必死に追走するもじりじりと離されてしまう。最後の直線では鋭い動きを見せるが及ばず2'22"74の3位であった。

結果的には400mから500mにかけてつけられた差が致命傷となった。日下は今シーズンこれまで記録もしくは得点を狙うレースをいくつもこなしてきたが、順位を狙ったレースは今シーズンこれが初めてであった。順位を狙うレースにあって勝負するポイントを逸しては勝つことは難しい。レース後2人についていけなかったことを非常に悔しがっていたが、この経験を活かし七大戦での活躍を期待したい。

13:10 男子 3000mSC 決勝

石原(4年)、月崎(4年)の出場。石原はこの種目で関東インカレにも出場

し得意とするが、故障のため十分な練習を積めていない状態で、七大戦を前に復帰戦としての出場。一方中距離の月崎は、今季ベストが10'06"18と苦戦が予想されるが、何とか入賞に絡みたいところ。

スタートから集団のまま1周を通過すると、石原が先頭に出て6人の先頭集団を引っ張り、1000mを3'11"で通過。月崎も2秒遅れで通過するが、集団から徐々に遅れ始める。先頭は集団のまま2000mを6'25"で通過。ラスト1周に入ると、まずは三澤(群大)がスパート、すかさず石原もついていく。さらにラスト200mで三澤と栗原(学大)がスパートをかけるとついていけず、先頭から6秒差の9'31"59の3位でゴール。月崎は遅れた後も何とか順位を保って9'52"94の7位。

石原は不調なりに上位に入ったものの、本人としては不本意なレースとなった。七大戦までの残り3週間で本来の調子を取り戻し、本番での優勝に期待がかかる。月崎はレース当日のコンディショニングに失敗してしまったが、今季ベストを更新した。七大戦では万全を期した状態で入賞を狙う。

13:40 男子 200m 決勝

2レーンに都井(2年)、8レーンに今村(4年)の出場。今季に入り両者とも自己ベストをマークしており、好成績が期待された。

序盤から力走を見せる今村だが、他大学の選手の好走により、ホームストレートに入った時点で僅かに出遅れる。後半も粘り強い走りでも食らい付くものの、前方の集団についていくのが精一杯で、22"64の6位でゴール。順位としては悔しい結果だったが、22"5~6台の安定した走りが身に付いてきている。一方の都井は、午前に行われた100mでは調子が上がらず、また、200mでは初めての対校選手としての出場であり、慣れておらず、スタートからスピード

を抑えてしまう。曲走路でついた差は後半の直線でも詰めることはできず、そのまま23"33の8位でゴール。本調子ではなかったが、自己ベストの記録であった。このとき風は無かった。

この種目で東大は辛くも1点を獲得した。この試合では敗北という結果に終わった。これから3週間、今村は安定してきたタイムの短縮、都井もさらなる躍進を念頭に、七大戦へ向けて調整を図ってほしい。

13:50 女子200m 決勝

3レーンに堀越(D2)の出場。女子チームはここまで走幅跳と800mによる1点ずつと苦しい戦いを強いられており、本種目で点を取って意地を見せたいところである。堀越は持ち記録では得点圏外だったものの、格上の選手に棄権が出て、3位のイスを狙える位置になった。また、七大戦・京大戦は院生の対校種目参加が認められていないため、院生の堀越にとっては本レースが今季対校選手としてのラストレースである。

号砲が鳴る。まず外側の川口(東学大)、望月(埼大)が飛び出し、主導権を握る。堀越は走幅跳の疲れもあってか、序盤はやや後方から前を窺う控えめな立ち上がり。それでも尻上がりにスピードを増し、8レーンの福永(東学大)に食らいつく。第3コーナーでの両者の伸びは殆ど互角であり、勝負の行方は直線に持ち越される。直線に入っても暫くはデッドヒートを続けたが、150m付近を境に福永がじりじりと後退し始め、これに堀越が粘りを見せる。終盤失速した福永に対し、堀越はフィニッシュラインまでスピードを維持し続け、27"57の3位でフィニッシュ。悲願の1点をもぎ取った上、自己記録を大幅更新した。このとき風は-0.5mであった。

冬期練習以来、筋持久力の強化に努めてきたことが後半の粘りを生み、今

回見事な入賞となった。



14:00 男子5000m 決勝

松本(4年)、梶井(3年)の出場。松本は午前の1500mに出走しこの日2本目のレース。調子は悪くなく、半村先輩('97年卒)の持つ大会記録14'54"44の更新を目指す。梶井は1週間前に足首を捻挫し欠場をも考えた中での出場。

スタートから松本は飛び出すと独走。梶井は無理せず自分のペースを守り、4位集団の中でレースを進める。松本は1000mの通過こそ2'53"だったが、気温の上昇と疲労もあって、以降は3'00~05"/kmのペースとなる。ラストパートで再びペースアップすると、14'59"36の1位でゴール。目標の大会記録更新とはならなかったが2位に52秒差を付けて格の違いを見せつけた。梶井は2000mを6'27"で通過すると、3000m過ぎから前の選手との差を詰め、ラスト1周も66"でカバーして学芸大の選手を引き離し、15'57"44の3位でゴール。万全の状態ではなかったものの彼らしい勝負強さを見せてくれた。

エース、次期エースとも自分の仕事を果たした良いレース。七大戦でも彼らの活躍に期待したい。



15:30 男子4×400mR 決勝

3レーンに深澤(3年)-梶岡(3年)-小澤(4年)-兵頭(1年)の走順で出場。今季安定したタイムを出してきている深澤と梶岡、短距離チーフであり持久力のある小澤、そして6月以降成長著しい兵頭の4人で臨む。七大戦を見据え、それぞれが現時点でどれだけの走りを見せられるかが気になるところだ。

1走深澤は順調にスタートを切り、バックストレートからぐんぐん加速し最終曲走路も軽快に駆け抜けていく。他大に引けを取らない良い位置でホームストレートに入るが、ラストで失速してしまいやや他大に離された位置でバトンパスとなった。2走梶岡はいつも通り前半から飛ばし、バックストレートでは学芸大、埼玉大とトップ争いを繰り広げる良い展開。その後、学芸大に先行され2番手で最終曲走路を走るが、ホームストレートで失速したところを埼玉大に一気に追い上げられ3番手に順位を落としバトンを繋ぐ。3走小澤は前を行く2校を追うがなかなか差を詰めることができない。落ち着いて自分のペースで順調に走っていくが、後半群馬大が追い上げてきてホームストレートでは競る展開に。しかしラス

トまで粘って猛追をかわし、順位を保ったままバトンをアンカーに託す。4走兵頭は前半でさらりと群馬大を引き離すと、前を行く2校を必死に追う。兵頭らしい安定した走りを見せるが先頭との差は大きく、結局3'21"94の3位でゴール。

3'18"台の2校には勝負できなかったが、今季ベストのタイムであり七大戦でも好位置が期待できるタイムである。ただ、新人兵頭以外のメンバーの走り(ラップタイム)が良くも悪くも安定してきており、マイルメンバーの一つの目標である3'20"を切るにはそれぞれもう一段階成長しなければならない。今一層の奮起が求められるだろう。



フィールド

10:00 男子棒高跳 決勝

木村(4年)、大谷(3年)の出場。パラパラと降っていた雨も公式練習までには止み、風は少し吹いていたが、気温もほどよく、比較的競技のしやすい環境での試合となった。大谷は足の怪我のため長い助走はできず、10歩助走で競技することにしたが、公式練習の前の段階から調子が良いようで、公式練習では4m00のバーの高さを選んだ。

木村は3m40と4m00を1回ずつ跳ぶことを公式練習では選んだ。

木村は3m40から試技を開始。アップライトは60。1跳目は助走が最後の3歩で減速してしまい、失敗。その後の2跳目、3跳目で調整を図るがともに減速してしまい、失敗。いいところなく、記録なしに終わってしまった。大谷は3m60から試技を開始。アップライトは60。10歩の助走ながらも、きれいに加速し、1跳目で見事に成功。次の試技は4m。アップライトは60。1本目、うまく最後まで加速し、跳んだが、抜きがうまくいかずに、失敗。高さは足りているように思われた。2跳目は最後の1歩がのびてしまい、抜きも修正できず、失敗。これも高さはバーを越えているように思われた。3跳目は、アップライトを70に変えて挑戦。助走はうまくいったが、ここでも抜きがうまくいかずに失敗してしまい、3m60の2位に終わった。

両選手とも力が発揮できず、七大戦に向けて厳しい結果となった。

10:00 男子走幅跳 決勝

尾崎(3年)、武安(3年)の出場。持ち記録は1位と3位であり、十分ワンツーフィニッシュが期待される2人である。この日は湿度が高かったが、雲が広がって日差しが全くなかったため過ごしやすい天候であった。風は助走路を左から右へ弱く吹いていた。今回の試合は七大戦の3週間前ということ実力を把握するとともに七大戦に向けてステップアップするという位置付けであった。

武安は前半は助走にキレがなく、あまりスピードが出ていなかった。しかし、後半は腕の振りなどを調整して本来の動きを取り戻し、5跳目に6m84を記録した。尾崎は1跳目の前に4×100mR、3跳目と4跳目の間に110mHに出場するというかなり体に負担のかかる厳しい日程であった。このハード

な日程が影響してか、今季最低のジャンプであり、結局6m82の4位に終わってしまった。武安も5跳目の6m84がこの日のベストとなったが、群馬大の選手に敗れ、惜しくも2位であった。

この大会では期待された得点を稼ぐことができなかったが、七大戦ではうまく調子を合わせて大ジャンプを見せてほしい。

10:00 女子走幅跳 決勝

堀越(D2)、高山(1年)の出場。天候は曇り、変わりやすい風の吹く中、競技は行われた。

堀越は国公立戦後、5m00台を目指し、助走の改善に取り組んできた。その成果が表れ、踏切前の助走スピード・リズムが格段に上がり、1跳目から4m92と自己ベストを更新する。4跳目には追い風参考ながら自身初の5m台となる5m01を跳び、同じく追い風参考ながら6跳目に記録した5m06で3位に食い込み、貴重な1点を得点した。なお、堀越は3跳目の4m99が公認での最高記録であり、自己ベストとなった。一方の高山は、疲労が抜けきらない状態で脚に不安を抱えての試技となった。助走が重く、加速が見られないままの踏切で記録を伸ばすことができず、5跳目に記録した4m70で5位に終わった。

堀越は助走の感覚を掴んだことから今後の記録更新が大いに期待される。高山も調子を取り戻し、七大戦で活躍することを期待したい。

10:15 男子砲丸投 決勝

小林(4年)、北川(3年)の出場。試合開始直前に弱い雨が降り始めたが、気温もさほど上らずまですのコンディションの中での試合となった。また今回は北川の地味な努力によって比較的軽い砲丸をあらかじめ見つけることに成功し、情報戦では他大学に一步リードを取っていた。

最近学科の方が忙しく練習時間がな

かなか取れなかった小林。毎回10mを超える投擲をしたが一発が出ず、3投目の10m50で6位であった。一方北川は、今回は関東インカレA標準の突破を狙ったものの結果は10m93で5位であった。

3週間後に迫った七大戦では得点を稼ぐのに11m以上の記録は当然必要となるため、両者のさらなる奮起を期待したいところである。

10:15 女子砲丸投 決勝

宮崎(4年)、楠木(2年)の出場。楠木はリレーの直後にも関わらず、公式練習の時分からすばらしい投擲を見せた。

楠木は1投目が5m後半をマーク。1投ずつ順調に記録を伸ばし、6m76を投げ、4位であった。宮崎はテーピングをして砲丸投げを試みるが5m台を脱することができず、5m77の5位であった。

今回の砲丸投げでは、それぞれに課題を見つけることができ、改善する点を発見することができた。今後の試合での記録更新に期待したい。

12:30 男子走高跳 決勝

持永(5年)、小福田(3年)の出場。気温も高く、風もあまり強くない絶好のコンディションのなか行われた。

持永、小福田ともに1m65からの開始。持永は1跳目足をバーにあてるものの、2跳目を余裕の高さで成功させた。次の1m70をパスし、1m75は1跳目は高さは足りているもののいつものような流れた跳躍で失敗。しかし2跳目で成功させた。そして1m80に挑むが、1、2跳目ともにバーに足をあててしまい失敗する。試技回数と次の種目である円盤投げの調整のため、持永はここで競技を終了した。小福田は助走があわず、1m65の高さで1、2跳目ともに失敗するが、3跳目を余裕で成功させた。これで勢いに乗り、1m70をあっさりと成功。そして自己新記録で

ある1m75も2跳目で成功させた。次の1m80もバーに触れたものの1跳目で成功させた。しかし1m85の高さになると、疲れもあってか踏み切りがあわず3跳連続で失敗してしまう。結果は小福田が1m80の3位で4点、持永が1m75の4位で3点であった。

小福田が自己記録を10cmも上回るジャンプに成功し、今後の試合に大きな期待をつなげる試合であった。3週間後の七大戦では1m90の成功に期待したい。

13:00 男子やり投 決勝

北川(3年)、谷(2年)の出場。雲間から太陽が顔を覗かせ、気温が上がり始めた中での競技となった。

砲丸投げで著しい成長を遂げている北川は、やり投げは今シーズン初戦となった。午前の砲丸投げで満足できる投擲ができなかった鬱憤を晴らそうと、気合を入れる北川。久々の試合であることを感じさせず、1投目はまですまの投擲を見せ、続く2投目では槍はきれいな弧を描き、50m90を記録し4番手でベスト8に進む。3番手の選手とは数十センチ差で十分射程圏内であった。しかし4投目以降は、槍は比較的きれいな飛行をみせるものの、力強さに欠け、記録が伸びず5位だった。谷は肘を痛めた影響で思うように練習が出来ていなかったが、ビデオ研究の成果からか、練習投擲ではいい投擲をみせ、俄然やる気を出す。2投目に56m94を記録し2番手でベスト8に進むと、トップと数十センチ差ということもあり、さらに記録を伸ばしにかかる。しかしその気持ちは槍には思うように伝わらず、2投目の記録のまま2位となった。

結局、2位と5位という好成績であったが、2人ともこの結果には全く満足しておらず、七大戦でのさらなる活躍が期待できそうである。

13:00 女子やり投 決勝

楠木(2年)の出場。午後になって曇

りがちだった空が晴れ、蒸し暑い中での試合となった。学芸大、群大と強豪の集う今大会だが、それでも選手の絶対数が少ない女子投擲で、得点の可能性に賭けて勝負を挑んだ。楠木は国公立戦でやり投に出場した経験はあるものの、普段は短距離パートで練習しているために国公立戦以降ほとんど準備をしない状態での出場となった。

最初の3投では何とか記録を残すことができたが、後半の3投中2投がファールと準備不足を露呈した。結果は国公立戦とほとんど変わらず21m76の4位で、3位に大差をつけられての最下位であった。

2年から入部し短距離で練習してきた楠木も、今大会後自身の特性を活かすために投擲パートで練習していく決意を固めた。今後投擲パートで基礎的な技術を身に付け、残る大会では女子投擲種目での得点元となっていってほしい。

13:00 男子三段跳 決勝

倉員(4年)、武安(3年)の出場。朝から続く曇り空の中での競技となった。自己記録では倉員が4位、武安が3位であり、自己記録の更新による高得点が期待された。

倉員は腰に違和感を感じており、体調も悪い中でのジャンプ。1跳目はステップのタイミングが合わずにつぶれた跳躍になってしまう。2跳目はホップの勢いが足りず、3跳目は時間をかけて集中するものの、なかなか思うような記録が出せない。一方、武安は踏み切り板に足が合わず1跳目、2跳目はファール。3跳目もうまく記録に結びつかない。3跳目終わった時点で武安3位、倉員4位。後半に大ジャンプが期待される。4跳目、武安がうまくタイミングを合わせ、記録を伸ばし14m32。5跳目、6跳目は記録を伸ばせず14m32の3位で競技終了。倉員は4跳目、5跳目も停滞したあとの最後の跳躍。拍

手を求め、リズムにのった助走から跳び出し、つぶれながらもこの日一番の跳躍を見せ14m22の4位に入った。

調子の良くない中での跳躍となったが勝負どころで粘りの跳躍を見せた。七大戦では自己記録の更新と高得点を期待したい。

14:30 男子円盤投決勝

持永(5年)、小林(4年)の出場。朝からの曇り空も晴れ、この日の最高気温に達する中競技が開始された。持永は6月下旬から調子が良く、自己ベストを更新しての好記録が期待された。

1投目は30mのライン手前に落ちたものの2投目にその失敗を修正、30m25の自己ベスト更新を達成した。3投目は失敗したものの3位とわずかな差の4位で前半を折り返す。後半も試技の度に修正し次の投擲に活かしていこうとするが、振りきりが定まらずに記録は伸びず、1人に抜かれ5位で競技を終えた。小林は1投目に記録を残すものの、2,3投目は足が安定しない。修正しつつ後半に臨むが、練習不足のためかまとまった投擲ができず4,5投目を終える。6投目に少し記録を伸ばすが、30mラインの大きく手前、28m44で6位に終わった。

4位が近かったにも関わらず、競り勝つことができずに順位は5位と6位。七大戦直前に、得点力の問題を浮き彫りにする結果となった。

1.5 試合結果

第32回国立4大学対校陸上競技大会
第14回国立4大学対校女子陸上競技大会

於 鴻巣市営陸上競技場 (H19.7.7)

男子 100m 決勝 (+0.2)

1 櫛引亮 埼玉大 10.93

2	福田雄介	群馬大	11.01
3	宮本学	埼玉大	11.06
4	藤本元太	東京大	11.10
5	高橋修平	東学大	11.11
6	高畑大海	東学大	11.32
7	都井紘	東京大	11.53
8	佐瀬景祐	群馬大	11.65

男子 200m 決勝 (±0.0)

1	福田雄介	群馬大	22.01
2	佐藤恒一	群馬大	22.02
3	伊藤裕一郎	埼玉大	22.22
4	河添広	東学大	22.41
5	鈴木大地	東学大	22.52
6	今村岳	東京大	22.64
7	星洋輔	埼玉大	22.68
8	都井紘	東京大	23.33

男子 400m 決勝

1	荒川洋一	東学大	50.43
2	深澤真楠	東京大	50.70
3	今泉和真	埼玉大	50.77
4	岩木佑太	群馬大	51.28
5	梶岡利之	東京大	51.49
6	田中勇考	埼玉大	52.01
7	鳩山和弘	群馬大	52.19
8	栗原諒	東学大	53.25

男子 800m 決勝

1	古井啓介	東学大	1.57.31
2	唐金拓矢	東学大	1.57.91
3	今泉和真	埼玉大	1.59.10
4	桶田武	埼玉大	1.59.55
5	坂井啓一	東京大	1.59.59
6	野村圭吾	東京大	2.00.19
7	小林弘樹	群馬大	2.00.71
8	田中博	群馬大	2.01.69

男子 1500m 決勝

1	松本翔	東京大	4.02.32
2	桶田武	埼玉大	4.03.44
3	斉藤俊	東京大	4.06.57

4	高橋優一	群馬大	4.09.46
5	齋藤祐一	東学大	4.09.48
6	浅川健	東学大	4.11.80
7	小林健	群馬大	4.14.38

男子 5000m 決勝

1	松本翔	東京大	14.59.36
2	高橋優一	群馬大	15.51.39
3	梶井俊介	東京大	15.57.44
4	松尾孟	東学大	16.01.34
5	三澤秀匡	群馬大	16.03.29
6	岡田達明	東学大	16.17.11
7	須貝顕一	埼玉大	16.24.77
8	佐藤慎平	埼玉大	17.18.72

男子 110mH 決勝 (±0.0)

1	秋山祐介	埼玉大	14.33
2	藤原泰裕	東学大	15.03
3	武井隼児	群馬大	15.48
4	尾崎翔	東京大	15.76
5	清水堯之	群馬大	15.97
6	加納淳起	埼玉大	16.28
7	酒谷彰一	東京大	16.39
-	松山直輝	東学大	DNS

男子 400mH 決勝

1	武井隼児	群馬大	54.40
2	藤原将博	東学大	55.10
3	岩木佑太	群馬大	55.79
4	中嶋祐介	東学大	57.14
5	加納淳起	埼玉大	58.81
6	門脇啓太	東京大	59.60
7	伊勢田明弘	東京大	60.01

男子 3000mSC 決勝

1	栗原龍太	東学大	9.25.93
2	三澤秀匡	群馬大	9.28.62
3	石原宏尚	東京大	9.31.59
4	山口貴史	東学大	9.38.19
5	酒井潤一	埼玉大	9.44.18
6	飯山直義	群馬大	9.46.80
7	月崎竜童	東京大	9.52.94

8 樋上龍矢 埼玉大 10.25.38

男子4×100mR 決勝

1 東学大 41.86
 2 埼玉大 41.99
 3 群馬大 42.00
 4 東京大 42.78

(今村-藤本-尾崎-福田)

男子4×400mR 決勝

1 東学大 3.18.13
 2 埼玉大 3.18.62
 3 東京大 3.21.94

(深澤-梶岡-小澤-兵頭)

4 群馬大 3.23.54

男子走幅跳決勝

1 福田雄介 群馬大 7m03
 2 武安光太郎 東京大 6m84
 3 岩崎将大 群馬大 6m84
 4 尾崎翔 東京大 6m82
 5 松山直輝 東学大 6m52
 6 林純平 埼玉大 6m49
 7 伊藤雅 東学大 6m20
 8 山田一輝 埼玉大 6m17

男子三段跳決勝

1 藤原泰裕 東学大 15m04
 2 木村友紀 東学大 14m87
 3 武安光太郎 東京大 14m32
 4 倉員智瑛 東京大 14m22
 5 林純平 埼玉大 13m54
 6 山田一輝 埼玉大 12m56

男子走高跳決勝

1 岩田康弘 東学大 1m95
 2 萩原康太 群馬大 1m90
 3 小福田大輔 東京大 1m80
 4 持永新 東京大 1m75
 5 佐瀬景祐 群馬大 1m70
 6 土屋真吾 東学大 1m65

男子棒高跳決勝

1 橘晃嗣 東学大 3m80
 2 大谷真人 東京大 3m60
 3 伊藤雅 東学大 3m00
 - 木村剛 東京大 NM

男子砲丸投決勝

1 藤原康隆 東学大 13m01
 2 秦知久 埼玉大 11m49
 3 田村祐太 群馬大 11m07
 4 市浦友也 東学大 10m98
 5 北川昂広 東京大 10m93
 6 小林宗隆 東京大 10m50
 - 相京優也 群馬大

男子円盤投決勝

1 市浦友也 東学大 41m36
 2 藤原康隆 東学大 33m38
 3 田村祐太 群馬大 31m59
 4 秦知久 埼玉大 30m64
 5 持永新 東京大 30m25
 6 小林宗隆 東京大 28m44
 7 久保達也 群馬大 23m69

男子やり投決勝

1 佐川太一 群馬大 57m53
 2 谷彰一郎 東京大 56m94
 3 秦知久 埼玉大 51m60
 4 大原一成 東学大 51m50
 5 北川昂広 東京大 50m90
 6 藤原康隆 東学大 41m37
 7 久保達也 群馬大 37m80

男子トラック順位

1 東学大 66
 2 群馬大 54
 3 埼玉大 50
 4 東京大 45

男子フィールド順位

1 東学大 54
 2 東京大 40

3	群馬大	31
4	埼玉大	16

男子総合順位

1	東学大	120
2	東京大	85
2	群馬大	85
4	埼玉大	66

女子100m決勝(+0.5)

1	川口夢加	東学大	12.63
2	望月美希	埼玉大	12.78
3	内山由理	群馬大	12.81
4	鈴木菜月	東学大	13.06
5	大久保渥子	東京大	13.78
-	菱沼美穂	埼玉大	DNS
-	清水蘭	東学大	DNS

女子200m決勝(-0.5)

1	川口夢加	東学大	25.51
2	望月美希	埼玉大	26.25
3	堀越彩香	東京大	27.57
4	福永美也	東学大	27.86
-	清水蘭	東京大	DNS
-	菱沼美穂	埼玉大	DNS
-	内山由理	群馬大	DNS

女子400m決勝

1	土田礼子	東学大	58.07
2	高橋由衣	埼玉大	61.20
3	本間聡子	東学大	64.84
-	日下桃子	東京大	DNS

女子800m決勝

1	上森加奈子	埼玉大	2.17.19
2	田島香織	東学大	2.18.06
3	日下桃子	東京大	2.22.74
4	角入千明	東学大	2.24.63
5	黒澤理実	埼玉大	2.28.52
6	福田海	群馬大	2.43.98
-	小須田一恵	群馬大	DNS

女子1500m決勝

1	狩野温子	群馬大	4.37.94
2	土井友理永	東学大	4.40.04
3	大友稚弘	東学大	4.52.37
4	青木香菜	埼玉大	4.58.98
5	黒澤理実	埼玉大	5.04.21
6	千葉麻里子	群馬大	5.23.07
-	日下桃子	東京大	DNS

女子3000m決勝

1	狩野温子	群馬大	9.55.86
2	牧原幸子	東学大	10.24.80
3	青木香菜	埼玉大	10.24.95
4	岩谷紗由里	東学大	11.10.47
5	永田真理	群馬大	12.05.77

女子4×100mR決勝

1	埼玉大	50.60
2	東学大	51.76
-	東京大	DSQ
(高山-大久保-楠木-清水)		
-	群馬大	DNS

女子走幅跳決勝

1	鶴生川早紀	東学大	5m55
2	飯山彩加	群馬大	5m23
3	堀越彩香	東京大	5m06
4	別役悠	東学大	5m04
5	高山花子	東京大	4m70
6	松本早由希	埼玉大	4m39
-	吉野真央	群馬大	

女子三段跳決勝

1	飯山彩加	群馬大	11m66
2	石橋久美子	東学大	11m48
3	濱田悠希	東学大	11m04
-	吉野真央	群馬大	DNS

女子砲丸投決勝

1	佐藤梓	東学大	9m44
2	松本早由希	埼玉大	8m18
3	高橋美樹	東学大	7m43

4	<u>楠木千尋</u>	東京大	6m76
5	<u>宮崎彩</u>	東京大	5m77

女子やり投決勝

1	<u>鶴生川早紀</u>	東学大	38m61
2	<u>佐藤祥</u>	東学大	34m30
3	<u>飯山彩加</u>	群馬大	32m44
4	<u>楠木千尋</u>	東京大	21m76

女子トラック順位

1	東学大	21
2	埼玉大	16
3	群馬大	7
3	東京大	2

女子フィールド順位

1	東学大	15
2	群馬大	6
3	埼玉大	2
4	東京大	1

女子総合順位

1	東学大	36
2	埼玉大	18
3	群馬大	13
4	東京大	3

2 2007年度部内5傑 2007.7.7現在

男子 100m

1	渡辺 裕太 (2年)	11"01(+1.5)	4.22
2	藤本 元太 (4年)	11"10(+0.2)	7.7
3	今村 岳 (4年)	11"22(+1.9)	5.4
4	福田 篤 (3年)	11"28(+1.4)	5.4
5	都井 紘 (2年)	11"35(+0.2)	5.26

男子 200m

1	今村 岳 (4年)	22"52(+1.0)	5.26
2	渡辺 裕太 (2年)	22"55(-0.2)	5.12
3	福田 篤 (3年)	22"93(+0.3)	7.7
4	都井 紘 (2年)	23"33(±0.0)	7.7
5	柴田 渥史 (2年)	23"68(-0.5)	5.26

男子 400m

1	深澤 眞楠 (3年)	50"66	5.3
2	兵頭 直弥 (1年)	50"96	6.16
3	梶岡 利之 (3年)	51"09	4.29
4	今村 岳 (4年)	51"28	5.3
5	小澤 聡 (4年)	51"6	5.26

男子 800m

1	齊藤 俊 (4年)	1'56"82	4.29
2	野村 圭吾 (2年)	1'57"75	4.14
3	坂井 啓一 (2年)	1'59"59	7.7
4	小澤 聡 (4年)	2'01"57	4.29
5	渡辺 拓也 (1年)	2'02"58	5.26

男子 1500m

1	石原 宏尚 (4年)	3'58"70	4.29
2	松本 翔 (4年)	4'02"32	7.7
3	月崎 竜童 (4年)	4'03"95	4.14
4	齊藤 俊 (4年)	4'04"33	4.14
5	野村 圭吾 (2年)	4'06"67	4.29

男子 5000m

1	松本 翔 (4年)	14'30"18	6.24
2	齋藤 俊 (4年)	15'29"82	6.24
3	梶井 駿介 (3年)	15'32"04	6.24
4	竹俣 直道 (1年)	15'53"24	7.7
5	山田 健太郎 (2年)	15'54"50	6.24

男子 10000m

1	松本 翔 (4年)	29'54"51	5.19
---	-----------	----------	------

男子 110mH

1	尾崎 翔 (3年)	15"32(-1.4)	4.8
2	酒谷 彰一 (1年)	16"39(±0.0)	7.7
3	持永 新 (5年)	17"16(-0.6)	5.13
4	増本 健太郎 (1年)	17"31(+1.7)	6.16
5	江間 輝裕 (1年)	18"15(+0.5)	5.26

男子 400mH

1	伊勢田 明弘 (5年)	56"75	5.4
2	酒谷 彰一 (1年)	58"41	6.17
3	江間 輝裕 (1年)	59"49	6.17
4	門脇 啓太 (3年)	59"60	7.7
5	片島 拓弥 (2年)	59"97	4.14

男子 3000mSC

1	石原 宏尚 (4年)	9'32"92	5.13
2	月崎 竜童 (4年)	9'52"94	6.24
3	山本 祥 (4年)	10'33"53	6.16
4	松永 将幸 (3年)	10'41"34	7.7
男子 10000mW			
1	和田 光一郎 (3年)	48'28"97	5.18
2	菅野 雄大 (4年)	48'54"44	4.15
3	北沢 太郎 (3年)	50'53"82	5.18
男子 走幅跳			
1	尾崎 翔 (3年)	7m34	4.14
2	武安 光太郎 (3年)	7m18	5.4
3	廣瀬 彬 (2年)	6m71	5.4
4	西田 昂広 (1年)	6m47	7.7
5	倉員 智瑛 (4年)	6m38	7.7
男子 三段跳			
1	武安 光太郎 (3年)	14m56	5.18
2	倉員 智瑛 (4年)	14m40	4.14
3	廣瀬 彬 (2年)	14m02	5.4
4	大谷 真人 (3年)	12m95	5.26
男子 走高跳			
1	小福田 大輔 (3年)	1m80	7.7
2	持永 新 (5年)	1m75	4.14
3	地子 智浩 (2年)	1m60	5.26
4	荒井 博貴 (2年)	1m50	7.7
男子 棒高跳			
1	大谷 真人 (3年)	4m20	5.19
2	持永 新 (5年)	3m60	5.13
3	木村 剛 (4年)	3m40	4.14
4	関原 孝之 (4年)	3m00	5.26
男子 砲丸投			
1	北川 昂広 (3年)	11m07	5.26
2	小林 宗隆 (4年)	10m50	5.26
3	持永 新 (5年)	10m32	5.26
4	寺島 孝明 (2年)	7m88	5.26
男子 円盤投			
1	小林 宗隆 (4年)	31m22	4.14
2	庄司 宇 (4年)	31m13	4.14
3	持永 新 (5年)	30m25	7.7
4	谷 彰一郎 (2年)	24m85	5.26
男子 ハンマー投			
1	庄司 宇 (4年)	38m15	5.4
2	寺島 孝明 (2年)	34m65	5.3

男子 やり投

1	谷 彰一郎 (2年)	60m50	6.17
2	北川 昂広 (3年)	50m90	7.7
3	関原 孝之 (4年)	50m17	5.3
4	葉梨 輝 (3年)	45m14	5.26
5	持永 新 (5年)	43m69	5.27

男子 十種競技

1	持永 新 (5年)	5682点	5.12-13
---	-----------	-------	---------

女子 100m

1	清水 蘭 (2年)	13"60(-1.3)	3.30
2	大久保 渥子 (2年)	13"78(+0.5)	7.7

女子 200m

1	清水 蘭 (2年)	28"21(+1.3)	6.17
---	-----------	-------------	------

女子 400m

1	日下 桃子 (2年)	61"92	5.26
---	------------	-------	------

女子 800m

1	日下 桃子 (2年)	2'19"87	4.29
---	------------	---------	------

女子 3000m

1	日下 桃子 (2年)	11'21"06	5.26
---	------------	----------	------

女子 棒高跳

1	宮崎 彩 (4年)	1m70	4.14
---	-----------	------	------

女子 走幅跳

1	高山 花子 (1年)	4m89	5.26
---	------------	------	------

女子 やり投

1	楠木 千尋 (2年)	21m76	7.7
2	大久保 渥子 (2年)	15m70	5.26

女子 砲丸投

1	楠木 千尋 (2年)	6m76	7.7
2	宮崎 彩 (4年)	5m77	7.7

3 自己記録更新者一覧 2007.5.28~7.7**6/16 順大記録会 (順大)**

3000mSC	山本祥 (4年)	10'33"53
---------	----------	----------

6/17 国土館大記録会 (国土館大)

やり投	谷彰一郎 (2年)	6m50
-----	-----------	------

6/16,17 日体大記録会 (日体大)

100m	中嶋毅彰 (2年)	11"62(+0.5)
200m	中嶋毅彰 (2年)	24"18(-0.9)
110mH	堀内敦史 (3年)	18"24(+1.3)

6/24,25 日体大長距離記録会 (日体大)

800m	須田遊人 (2年)	2'03"15
800m	西川鋭 (2年)	2'07"99
1500m	石川恭平 (2年)	4'14"97
1500m	千徳恒憲 (3年)	4'18"72
5000m	桑木健介 (1年)	18'15"75
5000m	渡邊拓也 (1年)	16'24"62
5000m	井出昌宏 (2年)	17'14"49
5000m	梶井駿介 (3年)	15'32"04
5000m	齋藤甲次朗 (3年)	16'50"71
5000m	板倉祥哲 (4年)	16'30"72
5000m	松本翔 (4年)	14'30"18

7/7 四大戦 (鴻巣)

100m	藤本元太 (4年)	11"10(+0.2)
100m	大久保渥子 (2年)	13"78(+0.5)
200m	都井紘 (2年)	23"33(±0.0)
200m	福田篤 (3年)	22"93(+0.3)
200m	堀越彩香 (D2)	27"57(-0.5)
800m	須田遊人 (2年)	2'02"93
800m	西川鋭 (2年)	2'07"37
3000mSC	松永将幸 (3年)	10'41"34
走幅跳	西田昴広 (1年)	6m47
走幅跳	倉員智瑛 (4年)	6m38
走幅跳	堀越彩香 (D2)	4m99
走高跳	荒井博貴 (2年)	1m50
走高跳	小福田大輔 (3年)	1m80
円盤投	持永新 (5年)	30m25

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

埼玉県の鴻巣競技場にて行われました四大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略) ご多忙の中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

1979年卒 中谷 敬二

1983年卒 八田 秀雄

1991年卒 小野 満

1994年卒 工藤 麻衣子

2001年卒 新妻 拓弥

2005年卒 藤田 靖浩

4.2 行事予定

6月30日に行われました、TK マスターズOB戦および同懇親会にお越し下さいました皆様に、厚くお礼申し上げます。七大戦前夜、京大戦当日夜にもそれぞれ懇親会がございますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。今後の行事予定をお知らせいたします。

- ・全国七大学対校陸上競技大会 (主幹は京大)
7/28,29(土,日) 西京極
- ・一橋戦
9/8(土) 町田
- ・京大戦 (当校主幹、80回記念行事を予定)
10/7(日) 駒場
- ・箱根駅伝予選会
10/20(土) 立川
- ・第5回東大競技会
10月下旬 駒場
- ・OBゴルフコンペ
11/11(日) 季美の森 (予定)

4.3 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

学生主務:山本卓典

文責:今村 岳